

第4期北海道科学技術振興基本計画の概要

資料 1 - 2

総合政策部次世代社会戦略局科学技術振興課

第1章 はじめに

位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 「北海道科学技術振興条例（平成20年北海道条例第4号）」に基づく4期目の計画 H20～24（第1期） H25～29（第2期） H30～R4（第3期） 「北海道総合計画～輝きつつける北海道～(H28～R7)」の特定分野別計画
趣旨	道、大学等、事業者、支援団体、金融機関等及び道民が適切な役割分担のもとで、本道の科学技術振興を図るための基本的な目標及び施策などを定める計画
期間	令和5年度から 令和9年度までの5年間

第2章 北海道の現状と課題・基本目標

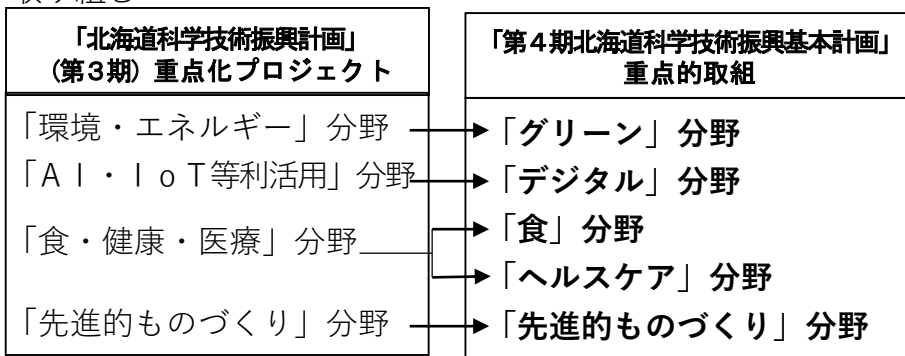
北海道総合計画	中期的に重視すべき視点	<ul style="list-style-type: none"> ○危機に対する強靱な社会を構築（ポストコロナなど） ○北海道の真価の発揮（広域分散、食、観光の強み） ○社会の変革への挑戦（IoT、AI、ロボット、脱炭素化） 	基本目標	基本目標Ⅰ 安全・安心で危機に弾力的に対応する社会基盤の構築	気候変動、自然災害リスクへの対応、インフラ強靱化など
				基本目標Ⅱ 北海道の優位性や独自の価値を活かした経済の発展	食料生産や再生可能エネルギーのポテンシャルの活用
				基本目標Ⅲ 社会変革の先にある持続可能で個人の多様性が発揮される社会の実現	ライフスタイル、ビジネススタイルの多様化や未来技術による社会経済の変革への対応

北海道総合計画における将来像を「科学技術の振興を通じて実現していく」

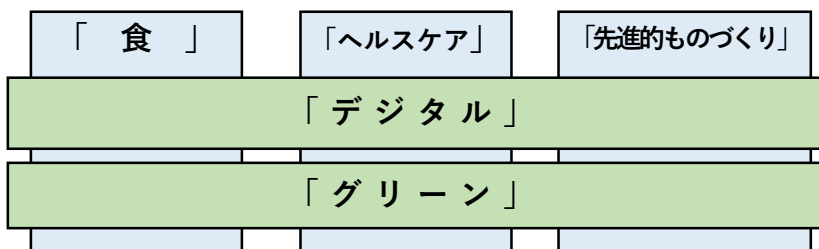
第3章 基本目標に向けた取組

第1節 重点的取組

第3期計画の「重点化プロジェクト」として位置付けた4分野は、引き続き重要であることから、本計画においても重点的に取り組む



「食」、「ヘルスケア」と「先進的ものづくり」分野について、「デジタル」と「グリーン」を横断的な切り口として推進



I 「グリーン」

- (1) エネルギー生産開発拠点の集積とエネルギーの地産地消
- (2) エネルギーの効率的利用
- (3) CCS大規模実証試験の実施
- (4) 森林等の二酸化炭素吸収源の確保

II 「デジタル」

- (1) デジタル分野の研究開発等の推進
- (2) 第一次産業におけるデジタル技術の活用及びものづくり産業との連携
- (3) 未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造

III 「食」

- (1) 食のバリューチェーンの構築
〔第1次産業の生産性の向上〕
〔食の付加価値の向上〕

IV 「ヘルスケア」

- (1) 健康科学・医療融合拠点における取組
〔ヘルスイノベーションの推進〕
〔先端医療・医学の研究開発〕

V 「先進的ものづくり」

- (1) 航空宇宙分野における研究開発・実証
- (2) 自動車の自動運転に関する研究開発の推進
- (3) 北海道の気候風土に根ざした質の高い住宅等

第2節 基本的取組

1 北海道の特性を活かした研究開発の推進

(1) 研究開発体制の充実・強化／(2) 基礎研究と応用・実用研究との調和／(3) 人文科学と自然科学の融合
〔指標〕 道内大学等における共同研究の件数 1,667件 (R3) → 1,872件 (R9)

2 道における研究開発等の推進

(1) 研究開発の推進と外部資金の確保／(2) 研究成果の活用促進／(3) 知的財産の活用

3 科学技術を支える人材の確保・育成

(1) 科学技術を担う人材の確保・育成／(2) 未来技術を支える社会的・人的基盤の整備
(3) 研究者の資質向上と確保／(4) 研究と法律・経営等の両方に精通した専門人材の確保・育成
(5) 若手研究者が活躍できる環境の整備及び女性研究者の活躍促進／(6) 優れた研究開発等の表彰等
(7) アントレプレナーシップを備えた人材の育成と道内大学等卒業者の道内就職率の向上
〔指標〕 新規大卒者（大学等）の道内就職割合 61.8% (R3) → 63.2% (R9)

4 産学官金等の多様な主体による協働の推進

(1) 北大リサーチ&ビジネスパーク構想の推進／(2) 地域における共創拠点の形成／(3) 関係機関の連携の強化
〔指標〕 道内大学等における特許等の実施許諾数 1,521 (R3) → 2,780件 (R9)

5 スタートアップの推進

(1) 北海道発のスタートアップの創出／(2) スタートアップ・エコシステムの構築に向けた取組
〔指標〕 道内大学発のスタートアップ創出数 のべ28件 (H28～R2) → のべ135件 (R5～R9)

6 研究成果の企業への移転及び事業化・実用化の推進

(1) 産学共同研究の推進／(2) コーディネート機能の充実・強化

7 連携プラットフォームによる活動の推進

〔指標〕 道内大学等における国のプロジェクト獲得件数 11件 (R4) → のべ60件 (R5～R9)

8 知的財産の創造、保護及び活用

(1) 知財マネジメントの確立と知的財産の活用促進／(2) 農林水産分野におけるブランド形成の促進
(3) 経済のグローバル化に対応した知的財産の保護

〔指標〕 特許流通サポーターによる特許流通相談件数 627件 (R3) → 790件 (R9)

9 科学技術コミュニケーション活動の促進

(1) 科学技術に触れ、親しむことができる機会の創出

〔指標〕 「サイエンスパーク」

・参加児童生徒数 1,300人 (R4) → 1,300人 (R9)

・オンラインアクセス数 30,000アクセス (R4) → 50,000アクセス (R9)

第4章 地域における取組

- (1) 本道の特徴ある研究フィールドを活用した各大学の研究活動
- (2) 産学官金等の連携の拠点形成が進められている道内6地域での地域懇談会の開催
<各地域の特色ある取組>

函館地域	スマート漁業・養殖業の推進、AI・IoTやものづくり技術による地場産業や社会インフラの発展支援、医療・情報・工学の連携による市民のウェルビーイング向上
室蘭・苫小牧地域	室工大と苫小牧市テクノセンターが創設した「CTプラットフォーム」を通じ、両者が保有する産業用X線CT装置の活用促進を図り、地域企業の技術競争力向上等を推進
旭川地域	「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」において、自治体、地域、地場産業が連携した人材育成と地域活性化を図るための共同研究を推進
北見・網走地域	北見工大が設置した「オホーツク農林水産工学連携研究センター」において、大学の持つ研究シーズとオホーツク地域の基幹産業である第一次産業とのマッチングを推進
十勝地域	とち財団と民間企業が中心となって設立した「ISOBUS普及推進会」において、国際的な通信規格「ISOBUS（イソバス）」に対応した農機の製品開発などに向けた取組を推進
釧路地域	釧路工業技術センターを中心に、地域産業の特性を活かし、鮮度保持技術の開発など農林水産品の高付加価値化の取組を推進

第5章 推進管理

計画の実効性担保のため、毎年度推進状況を点検評価し、道HPで公表